



大阪府医師会発

けんこう情報



骨折時の応急処置

骨折には適切な応急処置が必要。患部を動かさないようにして、ただちに病院に運びましょう。

骨折は、気づかずに放置しておくと、悪化させてしまったり、治癒を遅らせてしまうことになります。ねんざだと思って安心していたら骨折だったというケースも多く見られ、特に子どもさんや高齢者の場合は注意が必要です。骨折に対する正しい知識と応急処置方法を知っておきましょう。

●骨折している場合の特徴は？

骨折している場合は、以下のような症状があります。

- ・痛みが激しく、冷や汗がでたり、ちょっと触れても飛び上がるほど痛い。
- ・まわりに皮下出血があり腫れている。
- ・痛くて動かせない。
- ・触ると骨がくずれていることが分かることがある。
- ・折れた骨がすれてコツコツ音がすることがある。
- ・変形したり、くぼんだり、大腿骨や股関節（股のつけ根）の骨折では左右の足の長さが違うこともある。



●骨折したときの応急処置は？

骨折した場合には、無理に動かさず、その場で応急処置を行うようにしましょう。板や傘など、

副木になるものを探して、骨折した箇所が動かないように、上下の関節までをしっかりと固定します。

〈応急処置の手順〉

- ・骨折した部分を動かさないようにして、患者を安全な場所に移動させる。
- ・傷があれば、先に傷の応急処置をする。
- ・板や傘、雑誌、毛布、定規など、副木に使えるようなものを探す。
- ・骨折部の上下の関節を含めて副木で固定する。
- ・包帯は副木が動かない程度に、きつすぎず、ゆるすぎず巻くのがコツ。



●高齢者に多い骨折は？

高齢者は骨が弱っている場合も多く、転倒だけでなく、ちょっと手をついただけで骨折するケースも少なくありません。骨折の多い部位としては、股のつけ根（股関節）、手首、肩のつけ根、背骨などがあげられます。高齢者が転倒して起き上がれない場合などは、骨折を疑ってみるようになります。

痛がるので、安静にして寝かせておこうと考え、治療を遅らせるばかりか寝たきりの原因となることもあります。



強い痛みを訴える場合には、骨折を疑い、すみやかに整形外科医を受診するようにしましょう。